

誓いのことば

関 大和

本日は私たちのために、このような盛大な式典を催して頂き、誠にありがとうございます。
また、杉本市長を始めご臨席の皆様、そしてはたちの集いに携わってくださった全ての皆様に、参加者を代表して厚く御礼申し上げます。

私達は、職業に従事しているもの、学業に励んでいるものなどそれぞれの道を歩み始めています。そうした私たちがこのような機会に再会し、成長を祝えることを、うれしく思います。

20 歳という人生の節目を迎えたことで、改めて「大人になった」と感じると同時に、行動に責任が伴う重みを実感するようになりました。

この誓いのことばを考えるに当たって、自分の人生を振り返ってみますと、非常に多くの人に支えてもらってきたように感じます。

最近、甥が 1 歳になりまして、それはそれは可愛いのですが、まあ手がかかります。ご飯を食べるときは汚すし、何故泣いているのか分からない時もあります。
大変だなあと思うことも多いのですが、改めて考えると、自分もやってもらっていた事だと気付かされました。

私自身はよく迷子になる子供だったそうです。そのたびに怪我をして帰ってきたらしく、家族の心配や苦勞を思うと、とてもありがたく思います。
幼い頃には自分のことでめいいっぱい気づきませんでしたが、受けた恩の大きさを最近強く感じています。

また、家族以外にも、友人や恩師の方々にも多くの場面で助けていただきました。皆様のおかげで今の私があると言っても過言でなく、本当に感謝してもしきれません。

そのため成人を迎え、自立し始めてきた今、これまで支えてきてくださった方々へ感謝の気持ちを伝えるとともに、今度は私が誰かを支えられる人間になりたいと決意しています。

最後にはなりますが、二十歳を迎えても私達はまだまだ未熟で、今後の人生、多くの人に助けて貰うことになると思います。しかし、その度に恩返しをし、次の世代に受け継いで行くことの出来る、立派な大人になることをここに宣言し、誓いのことばとさせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。